

コロナ禍による変化

(2020/5/30 明治大学専門職大学院ガバナンス研究科 オープンキャンパスのディスカッションのまとめ)

- 在宅勤務・非対面業務の広がり
 - 在宅できる人とできない人、格差拡大
 - 執務空間不足、緊張感不足
 - 押印省略などの効率化
 - 従来の手順が機能せず混乱、個人情報保護対応困難
- 自由時間増加
 - 自宅で料理、運動など（一長一短）
 - 子供との時間、自己研鑽の時間増
- 清潔意識の高まり
- 海外渡航困難
 - ボランティア活動等中止
- 小売業等の業態変化
 - 時間短縮、一部で人材余剰、置き配

ファシリテーター：
大場奈央、鈴木克洋、長澤興祐、田口祐子
蔵内はるひ、阿部佳音、大澤さゆり

コロナ禍による変化

コロナ禍前		現在・コロナ禍後
・定時勤務	⇒	・在宅勤務 シフト制
・満員電車に乗っていた	⇒	・座席に座れる
・通勤していた	⇒	・在宅ワークになった ・モチベーション維持が難しいのでルーティーンを決めた(お化粧をするなど)
・会社に勤務	⇒	・在宅勤務できる人でできない人の差が出た
・外で仕事をする	⇒	・マンションの別の部屋を借りて事務所にした(マンションの役割が変わる)
・職場で個人情報を扱ってきた	⇒	・在宅勤務で個人情報を扱うことができない
・対面で会議していた	⇒	・字を書かなくなった、会議がオンラインになった
・人に会っていた	⇒	・人に会えない(議員の接触)
・認可申請の書類や処理は紙ベース、来庁 ・ハンコ、玄関に届けなければいけないというのが当たり前	⇒	・オンライン申請、置き配、ハンコを押さなくてよい:業務の変化、書類を印刷しなくてもいいような業務改革、テレワーク、会社全体で変えていく
・意思決定、方向性を決めたあとの落とし込み ・マイナンバー:国と地方自治体で違い	⇒	・平常時であればうまく回るプロセスが、非常にうまく機能しない、進むのに時間がかかる ・ICTを使ってみんなでもっとうまくやることではないか、国がもっとよいプラットフォームを構築、すぐにほしいものが届くシステム
・モノの共有は気にしなかった	⇒	・ものを共有することが怖くなった(お風呂の共有など)
・消毒はあまり気にしない	⇒	・消毒することが増えた
・身体的接触が多い	⇒	・身体的接触を伴うので在宅は難しいが、在宅が必要
・大型のフィットネスジム	⇒	・家で動画をみながらやる個人フィットネス
・子どもと接する時間が少なかった	⇒	・子どもと接する時間が増えた
・毎週の休暇	⇒	・家事ができる ・残業がないので運動できる
・休日がなかった	⇒	・在宅でも3食の食事作りは大変
・休みがない	⇒	・夜の会合がなくなった(飲み会等)、在宅を楽しんでいる(料理とか) ・端末のサポート業が多くなった
・自己研鑽の時間がない	⇒	・自己研鑽の時間が増えた
・海外のボランティアできる/海外が近い	⇒	・国内から出られない/海外が遠くなってしまった
・インドネシア派遣として働く予定だった	⇒	・選択肢がなくなった、モチベーション維持が難しい
・これまでどおりの貧富の差	⇒	・貧富の差が広がることによって相談業務が増えた
・宅配業者の時間指定があった	⇒	・置き配
・24時間営業だったコンビニ・スーパー	⇒	・早く閉店するようになった、人員の削減
・人手不足(外国人労働者でおぎなう)	⇒	・人手余剰(外国人労働者どうするか)
・TV番組	⇒	・TV番組が面白くない

コロナ禍前	→	現在	コロナ禍後のシナリオ				
				確率	メリット	デメリット	いまから自分ができること
海外が近い	→	海外が遠い	↓ 元に戻る	70～ 80%	<ul style="list-style-type: none"> 自由に海外に行ける 輸出入しやすくなる 	<ul style="list-style-type: none"> 感染リスクが増える 不法移民問題 	<ul style="list-style-type: none"> 感染予防の意識習慣の継続 感染リスクを恐れない 海外の友人等に日本の感染予防を伝える／日本の感染予防が1つのコンテンツになる 日本の対策等を海外に伝える 物理的なグローバル化ではなく、オンラインの役割が増えた
			↓ 戻らない	20～ 30%	<ul style="list-style-type: none"> 不法移民の定住 バーチャルで海外の情報が得られるようになった 離れた国に行かなくてもバーチャルで出来ることが増える 	<ul style="list-style-type: none"> 観光業の衰退 海外の人を講師とするセミナー 外国人実習生 外国人自由に母国に帰れない 	<ul style="list-style-type: none"> 長期の休暇で海外に行きたい思う人 日本国内での旅行の需要

まとめ：
 コロナ禍により、海外は物理的には遠くなったけど、オンライン上では近くなった

コロナ禍前	→	現在	コロナ禍後のシナリオ				
				確率	メリット	デメリット	いまから自分ができること
モノの共有を進めていた リユース シェアエコノミー	→	モノを共有することが怖くなった	↓元に戻る	60% 感染収束 ものによる	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境問題の解決 地球環境の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 社会全体の需要の減少 コロナ後の経済回復の回復の足かせ 	<ul style="list-style-type: none"> 消毒方法の調査 シェアするモノごとに確認する
			↓戻らない	40% ものによる	<ul style="list-style-type: none"> 感染拡大再燃の防止 	<ul style="list-style-type: none"> ごみ問題(メルカリなどの流通でのシェアができない) 	<ul style="list-style-type: none"> 一つのことを長く使う 地産地消

コロナ禍前	→	現在	コロナ禍後のシナリオ				
				確率	メリット	デメリット	いまから自分ができること
毎日決まった時間・場所に仕事に行く	→	在宅勤務シフト制進んできた	↓元に戻る	80%	<ul style="list-style-type: none"> •以前の生活スタイルを変えなくてもいい •安泰 	<ul style="list-style-type: none"> •また感染症が流行した時に対応できない •進化がない •直接のコミュニケーションが取れない 	<ul style="list-style-type: none"> •衛生面で気をつかう(集団感染を防ぐために) マスク・手袋・エプロン・消毒液 •自分の身は自分で守る(無理して仕事に行かない)
			↓戻らない	20%	<ul style="list-style-type: none"> •意外といなくてもなんとかなる 朝礼なくてもOK 人いなくてもOK 無駄な会議 紙資料 •お客さん増える業種もある(生活困窮の方を対象とした仕事) •自己研鑽の時間が増える 	<ul style="list-style-type: none"> •接触を避けられない仕事もある •現地調査や海外に行くことが難しい •身体介助や相談の人員が不足する 	<ul style="list-style-type: none"> •雇止めや派遣切りにあった人へのケア •ネットへの馴染みがない人に対してのアプローチ •現場外での自己研鑽のために資料準備→評価の仕組み •職場外の交流(職場のみではなく他の選択肢も)

コロナ禍前	→	現在	コロナ禍後のシナリオ				
				確率	メリット	デメリット	いまから自分ができること
<p>・給付金、補助金、許認可申請のペーパーワーク、来庁</p>	→	<p>オンライン申請(ただし、トラブルがまだまだ多い) 行政のたてわり、共通プラットフォームのなさ、国民目線での煩雑性、スピードの問題、誰がどのように政策資源を投入すると決めるのか?(どこが音頭をとるのか?)</p>	↓元に戻る	30%	<ul style="list-style-type: none"> ・対面で話して申請等を進められる 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段来庁する人の声に政策の方向性や事務の利便性等が左右されやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育(小中学校へのタブレット端末配布等、次の世代への働きかけ) ・ハードのみならず、ソフトでの整備(どのように情報を得るか?を学ぶ) ・現状のやり方を一定程度いかしたうえで業務継続性の向上
			↓戻らない	70%	<ul style="list-style-type: none"> ・手続きがスムーズ(事業者としては助かる)、迅速化 ・幅広い利害関係者の方が参画できるプラットフォームを構築できる ・本当に情報を必要とする方へのプッシュ型情報発信 ・自署やハンコを必須としない事務処理 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り残される方がいる(ITが使えない、デバイスを購入する金銭的余裕がない、業界の体質) ・各自治体が個別にシステム等を開発した場合、本来不要なコストが生じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・既に企業等の民間のアクターが実施している取り組みに着目し、実証実験を行う(民間と行政をつなぐ、先行投資の誘発により、予算確保上の障壁を突破する) ・民間の立場からの業務改善

コロナ禍前	→	現在	コロナ禍後のシナリオ				
				確率	メリット	デメリット	いまから自分ができること
通勤していた	→	通勤がなくなり在宅ワーク	↓元に戻る	50 ～ 80 %	<ul style="list-style-type: none"> •対面で話せる •経済的にもいい 	<ul style="list-style-type: none"> •東京一極集中 •時間の余裕がなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> •時間をずらして通勤する(都内の中心部の方が空いている、遠方の方が混雑が多いからこそ..) •朝の混雑を防ぐために気を付ける
			↓戻らない	50 ～ 20 %	<ul style="list-style-type: none"> •人混みを避けられる •満員電車に乗らなくていい •時間的余裕が生まれる 	<ul style="list-style-type: none"> •洋服を買わなくなる •経済的に支障があるかも.. •スーツとか買わなくなる、お洒落をしなくなる •都心部に住まなくなる •飲み屋さんに行かない •交際の仕方が変わる 	<ul style="list-style-type: none"> •通信環境を整える •家にいるとどうしてもだらけてしまう。そのために、運動不足を解消するため、何か行動する(家の中のミニバイクを用いるなど)

コロナ禍前	→	現在	コロナ禍後のシナリオ				
				確率	メリット	デメリット	いまから自分ができること
コンビニ・飲食店の営業時間24時間営業	→	短縮営業 人員の削減	↓元に戻る	50%	<ul style="list-style-type: none"> •便利 •備蓄がいない 	<ul style="list-style-type: none"> •仕事の量が増える •買い出しに行かされる •人不足になる 	<ul style="list-style-type: none"> •外食が増える •栄養バランスを考えて備える
			↓戻らない	50%	<ul style="list-style-type: none"> •家のことができる •少年がたまらない •仕事の早仕舞い •残業が減る •買い物ができない 	<ul style="list-style-type: none"> •備蓄しなければならぬ •家事が増える 	<ul style="list-style-type: none"> •計画性を持った生活を考える。